

Main racing program table with columns for race numbers (18, 17, 16, 15, 14, 13, 12, 11, 10, 9, 8, 7, 6, 5, 4, 3, 2, 1), race names, participants, odds, and results.

京都 11 発走 15:40

第74回菊花賞(GI)



3歳以上 牡・牝 重賞

本紙の見解

エピソードは、どちらも勝っていき共々内容で、地方は世代トップ・ランク。皇月賞は、ダビエ馬共不在なら、馬の馬力が出たが、穴の馬は十分。馬場悪化なら、走破率はさらに高くなる。③サトノブレスは神戸新聞杯で劣ったが、素質馬本格化近しいと思われた。逆転までとなるが、下の可能性は高くなる。④ケイアイチヨウサンは母の父にシンゴロクドエスを持つ。ジョージ×ネヴァービートの配合で、血統だけでいえば、菊上り馬。前走のセントラリスが、内容は勝ちに等しい。春当時は馬が一変しているし、近親にマンハッタンカフエがいる血統背景も魅力。⑤首位有望

馬単 table with columns for race numbers and horse numbers, showing combinations and odds.

相本 複連 section with detailed analysis of horses and race outcomes, including a table for 3連複 and 3連単 results.



(2013年10月14日終了現在)

関西

順位	騎手	名	年令	所属	①特別着	②重賞着	③着	④着	⑤着	着外	連対率
①	川田	永	28	(フリー)	104	8	81	70	61	54	239.304
②	福永	36	(フリー)	101	28	8	88	77	59	54	278.288
③	岩田	39	(フリー)	100	31	8	89	68	53	82	309.270
④	浜中	24	(フリー)	100	35	4	80	72	74	58	317.257
⑤	武豊	44	(フリー)	78	34	9	50	49	51	37	251.248
⑥	松山	23	(フリー)	52	23	1	47	54	52	54	434.143
⑦	幸友	37	(フリー)	48	12	1	60	78	61	61	459.141
⑧	北村	27	(フリー)	42	12	1	44	47	42	46	324.158
⑨	菱田	21	(岡田)	42	3	1	39	55	51	42	439.121
⑩	松田	35	(フリー)	42	18	1	38	38	46	26	314.159
⑪	四位	40	(フリー)	42	18	1	38	25	25	17	185.241
⑫	藤田	41	(フリー)	42	14	1	33	25	20	33	210.207
⑬	小牧	46	(フリー)	40	12	1	38	42	37	48	335.144
⑭	和泉	36	(フリー)	39	10	4	69	44	53	45	406.165
⑮	藤岡	24	(フリー)	35	11	1	35	39	36	36	290.149
⑯	川須	21	(フリー)	34	5	1	33	37	45	37	375.119
⑰	秋山	34	(フリー)	32	8	1	39	36	44	38	266.156
⑱	池添	34	(フリー)	31	10	2	43	27	35	25	248.181
⑲	中井	20	(フリー)	31	1	1	35	47	48	53	453.099
⑳	高倉	22	(崎山)	28	8	2	29	24	27	41	453.095
㉑	古川	36	(フリー)	27	8	1	23	21	29	25	266.128

成績欄の各馬の上がり時計で「レースの最速上がり」計測時は太字で表記することにししました。検討の際の参考にも。

『成績欄にチークPも表記』
今までのB(フリンカー)に加え、レースでのC(チークP)に着用も表記します。成績欄の最下段、1着馬名の前に「四角の白抜き文字」で【C】と表示します。なお、今回のB着用は今まで通りの表記、チークPにシズに関しては事前の公式発表はありません。

- ◎菊花賞優勝馬の前走成績◎
- 15年ザッツザブレンティ 神新聞⑤
- 16年デルタブルー 一千万①
- 17年ディープインパクト 神新聞①
- 18年ソングオブインパクト 神新聞③
- 19年アサクサキングス 神新聞②
- 20年オウケンブルースリ 神新聞③
- 21年スリーロールズ 一千万①
- 22年ビッグウェイク 神新聞③
- 23年オルフェーヴル 神新聞①
- 24年ゴールドシップ 神新聞①

競馬人情 吉川良

もともと何かに挑戦するといふ才覚も度胸もないし、じいさんになつてしまえば挑戦だなんて夢の話だが、ありがたいことに馬券をやっていると、ささやかながら挑戦をしているような気分になれる。

例えば第74回菊花賞で、誰に言わせたって名牝シーザリオの息子のエビファネアの能力が抜けている。

エビファネアの2着さがし、というのが常識だろう。

けれども、それではミモフタもないじゃないかと、なんとかエビファネアを負かせられないうものかと、じいさんの挑戦を試みてみるのだ。

マジステイハーツの松永昌博厩舎は、2011年にウインバリアシオンで、ダービー、神戸新聞杯、菊花賞と3戦連続、オルフェーヴルの2着なのだ。

森一馬騎手が神戸新聞杯で菊の出走権を得たマジステイハーツに武豊が乗り、松永昌博厩舎がウインバリアシオンの無念を晴らす。おお、ドラマだ。

でも、エビファネアを相手に1頭では心細い。セントライト記念で変身したみたいに出走権を取ったダービーフィズ、伯父マンハッタンカフェの血が騒ぐかもしれない。

⑬―⑬の馬単2点がおれの挑戦というわけだ。おっと、もう1頭、神戸新聞杯でのしごときが目に浮かんできたなあ。サトノプレスだよ。⑭―⑬の馬単も買う。